

## 【高陵小学校西側斜面の調査結果に関する説明会の会議録】

1. 日 時 令和元年12月15日（日） 午前10時から正午まで
2. 場 所 高陵小学校 体育館  
(参加者：高陵校区 27人 中宮北校区 20人)
3. 内 容 高陵小学校法面調査委託結果報告の説明及び質疑回答
4. 司 会 高陵校区コミュニティ会長、中宮北校区コミュニティ会長  
説明者 高橋総合教育部次長、畑中学校規模調整課長、松尾課長代理、  
受 付 田中係長、廣瀬主任

### (事務局)

本日はお忙しい中、「高陵小学校西側斜面の調査結果に関する説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は、高陵校区と中宮北校区の合同の説明会としております。まず、今から皆様に、運動場から法面をご覧いただき、その後10時半から法面の説明をさせていただきます予定としております。体育館の前のスクリーンにありますように、5箇所をボーリング調査しておりますので、法面の形状をご確認いただき、10時半までに、体育館にお戻りいただきますようお願いいたします。それでは、運動場へ移動をお願いします。貴重品につきましては、各自でお持ちいただきますようお願いいたします。

### 《高陵小学校法面の現地確認》

### (事務局)

それでは、10時半となりました。ただいまから、「高陵小学校西側斜面の調査結果に関する説明会」を開催させていただきます。皆様、本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは、本日の司会進行につきましては、高陵校区コミュニティ協議会の伊藤会長と中宮北校区コミュニティ協議会の森田会長に、ご協力をいただきまして、司会進行のお願いをしておりますのでどうぞ、よろしく願いいたします。また、皆様からいただきました貴重なご意見等につきましては、今後の取り組みの参考にさせていただくため、説明会の状況を録音させていただきますので、併せてお願いいたします。

それでは、伊藤会長と森田会長、本日の司会をどうぞよろしく願いいたします。

### (高陵校区コミュニティ会長)

ただいま、教育委員会から紹介がありました、高陵校区コミュニティ協議会会長の伊藤です。よろしく願いいたします。

**(中宮北校区コミュニティ会長)**

中宮北校区コミュニティ協議会会長の森田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(森田会長からこれまでの経過や、背景の説明)

**(高陵校区コミュニティ会長)**

それでははじめに、本日の説明会は12時に説明会を終了しますので、よろしくお願ひいたします。説明会の開会に際しまして、枚方市教育委員会総合教育部次長から、挨拶をしてもらいたいと思います。

**(総合教育部次長)**

日頃は、本市教育行政の推進にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また、本日は、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。また、校区コミュニティの会長である、伊藤会長、森田会長におかれましては、この説明会の進行を快く、お引き受けしていただき誠にありがとうございます。

さて、全国的に小子化が進行しており、本市におきましても、児童生徒数が減少し、ピーク時に比べ半減しているといった状況になっております。将来推計においても今後さらに児童生徒数が減少することが見込まれ、多くの学校において教育環境や学校運営への課題が生じてまいります。このため、教育委員会では、平成29年6月に「枚方市学校規模等適正化基本方針」の改定を行い、これらの新しい課題への対応をお示したところでございます。

この、高陵校区と中宮北校区、それぞれにおきましても、基本方針についての説明会を開催させていただくなど、学校統合の取り組みを進めているところでございます。

これまでの説明会におけるご意見の中で、教育委員会が統合校敷地として考えております、高陵小の法面の安全性についてのご意見を多く寄せていただいたことから、安全性を科学的な根拠に基づき判断するため、高陵小学校西側斜面の土質調査を実施しました。本日は、その土質調査の結果報告とともに、実際にその法面を見ていただく機会を設け、皆様に、ご説明をさせていただいた上で、学校統合の取り組みを進めさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

簡単ではございますが、開会に際しましての挨拶とさせていただきます。

**(高陵校区コミュニティ会長)**

それでは、早速、説明をしてもらいます。

説明は、学校規模調整課課長代理からさせていただきます。

## (事務局)

### ＜高陵小学校法面調査委託結果報告＞のパワーポイントによる説明

それでは、「高陵小学校法面調査委託結果報告」ということで、この調査は、学校統合に伴う統合校敷地としての、法面の安全性に対するご意見や、平成30年6月に発生した大阪北部地震、また同年9月に発生した台風による影響などを踏まえ、法面の安定性を確認するため、専門業者に委託発注し、平成31年2月15日から令和元年7月15日までの期間、地質調査を行った結果報告です。

#### (P1)

まず、はじめに、高陵小学校法面の地形と地質概要について説明をしますが、法面という言葉が頻繁に出てきますので、まず法面の意味ですが、法面とは、切土や盛土により作られる人工的な斜面のことです。道路建設や宅地造成などに伴う、地山掘削、盛り土などにより形成される斜面のことです。

#### (P2)

次に、左上の大阪盆地の地質図をご覧ください。

その右上に赤色線で囲んだ四角の部分の中に赤丸で囲んだ部分が、高陵小の法面になります。右に拡大図を載せています。赤丸で囲んだ部分の矢印の先端の部分ですが、ちょうど高陵小学校の法面の大部分は大阪層群の香里類層が見えています。法面の上の部分は中位段丘の堆積層になっています。中位段丘の堆積層は、この横線部分です。高陵小や中宮北小などのこの丘の上のところの表層部分はすべて中位段丘堆積層となっています。そして、その下には、大阪層群があるという地層になっています。そして、一番右が同じ箇所です23年米軍撮影の航空写真です。

#### (P3)

先ほどの写真を拡大しましたのが、こちらの写真となります。こちらが、高陵小学校で、ここが、旧1号線、ここが市民病院の前の道、杉田口禁野線です。

このあたりは、すべて中位段丘堆積層になると考えています。この中位段丘堆積層の下に、大阪層群があります。

#### (P4)

次に、大阪層群ですが、大阪層群は200万年前から10数万年前までの地層です。この地層ができる間に、寒冷な気候（氷期）と温暖な気候（間氷期）が何回もくりかえし、それにもなると海面が上がったり、下がったりしていました。100万年間に10回以上も海面が上がったり下がったりをくりかえし、海面が高い時には粘土をため、低い時には砂やレキを

ためたという層になります。大阪層群の厚さは、場所によって異なるそうですが、300mから700m深さまで存在することがわかっています。

次に、中位段丘堆積層ですが、段丘地形はもともと河床や海底だった所が、地殻変動等の影響を受け、離水することにより形成されます。一般に段丘堆積物は強度が強く、土木的に問題となることは少ないとされている層になります。大阪層群を不整合に覆っている段丘層の厚さは10m内外であるということです。

(P5)

次に、調査地及びその周辺地域の大阪層群に発達する地質構造ですが、この赤丸が高陵小法面の調査地となります。

周りには、枚方撓曲、田口撓曲、生駒断層、交野断層、長尾撓曲があります。撓曲というのは、地中のある断層がずれたことで、上にある地層がたわむ現象であるということで、撓曲の下には、地表には出ていませんが、断層があるということです。

この枚方撓曲の北側は、別の国土地理院の資料によると、ひらかた大橋の少し西側から高槻に抜けているものとして示してあります。

(P6)

次に調査の内容ですが、専門業者による土質調査及び地すべり解析を行いました。

調査箇所 5箇所において土の資料採取及び物理試験、力学試験、地すべり安定計算による安全率の算出を行いました。

(P7)

調査箇所は、現場でご確認をいただいた通り、ご覧の斜面のN01 N05N02と運動場側のN03 N04の5箇所で調査を行いました。

(P8)

調査箇所の現場写真となります。

調査の際は、森田会長にも、立ち合いをしていただきました。

(P9)

次の写真はN01～N04までのボーリング調査をした際の、土のサンプルを採ったものになります。

N01のサンプルをご覧ください。表面の0mから1m70cmまで、造成した際の人口層となっています。1m70cmから下の4mまでの茶色の部分が先程説明をいたしました、中位段丘堆積層になります。そしてその下からの青い灰色の部分が均質な粘土層となり、大阪層群となっています。

(P10)

次に調査解析の概要ですが、これは、高陵小学校の断面図ですが、校舎側の NO1 NO5 NO2 断面となります。これは、先ほどのボーリング調査の結果の同じ土質をそれぞれの、調査箇所を結ぶことで地層の分布状況を把握しています。

この断面図は、現地を実際に測量した数値をコンピュータに入力し、断面図を作成しています。青色の部分が粘土層、黄色の部分が砂質土層になります。

(P11)

同様に坂道側の NO3 NO4 断面です。

(P12)

校舎側の NO1 と、坂道側の NO3 を結んだ 1～3 断面です。

(P13)

法面の下側の NO2 と NO4 を結んだ 2～4 断面となっています。

(P14)

先ほどの断面の地層を、地質年代や地層名別に地質の特徴をまとめた表となっています。上から、造成した際の人口層、2 番目の柿色の層は段丘層、そして、その下からは、大阪層群の粘性土質と砂質土質の層が交互に層をなしていることがわかります。

(P15)

法面の安定性の検討を行うため、次の通りおこなっています。法面の安定性を評価するため、土質ボーリング調査により得られた地層、地質、数値データ、及び採取資料等を用いて地すべり（円弧すべり）に対する解析を下記のとおり行います。

①土質ボーリング調査により把握できた粘土層については、その層の土を採取し、土質試験（室内試験）において物理的、力学的な特性を数値化しました。

②法面が安定であると評価される値は、安全率  $F_s$  で表し、常時で 1.5 以上、地震時で 1.0 以上であります。

※ 地震時の評価は大地震時の目安として震度 5～7 程度であると想定しています。

③粘土層の部分と法面全体の 2 とおりの安定性を評価しています。

④さらに、現時点と長期（将来）の安定性を評価しています。

※ 長期（将来）の安定性評価とは、降雨等により、法面の土が長期間水にさらされて吸水、膨張し、強度を低下した最終的な状態で安定性を評価するもので土質試験により解析に用いる数値を得ました。

(P16)

次に、解析シミュレーションの一例でございます。図のように 10m×10mの格子を縦横 2.5mに区切り、それぞれの格子の頂点を中心とし、斜面に交わる円を半径 1m単位で描き、円弧すべりに対する安全率をそれぞれの円弧において計算をしています。そしてこの格子を上下左右に動かし、すべて計算をし、一番小さな安全率を求めています。それが今回求めましたの最小安全率になります。

(P17)

次に、高陵小学校法面調査の結果についての報告書を抜粋した表となります。法面の最小安全率を載せています。表の左の欄をご覧ください。まず、安定性評価ということで、現況の安定性評価と長期の安定性評価を実施しています。先ほどの法面の安定性の検討でお示しした通り、現況とは現時点のことで、長期とは将来の安定性を評価しています。繰り返しになりますが、長期の安定性評価とは、降雨等により、法面の土が長期間水にさらされて吸水、膨張し、強度を低下した最終的な状態で安定性を評価するもので、土質試験により得た数値を使用しています。そして、その現況と長期に常時と地震時そして、各々の対象層 2-1 断面 4-3 断面について、最小安全率を求めた結果を表示しています。

(P18)

次の資料につきましても、報告書から抜粋いたしました。読み上げさせていただきます。

今回実施したのり面の安定解析結果より、段丘層及び大阪層群より構成されている本切土のり面は、表 5.5.1 に示すように、常時、地震時ともに必要最小安全率を満たしていると評価される。また、解析に使用した大阪層群粘性土層(0c1～0c4 層)の地盤定数は、安全側に配慮してその値を設定していることから、実際ののり面の安全率は表 5.5.1 よりも大きいことが想定される。したがって、今回の調査・解析結果より判断すると、当切土のり面は、現在及び将来(長期)にわたって安定するものと評価される。ただし、丘陵地の粘性土層(0c1～0c4 層)は基盤構造(断層や撓曲)の影響を受けて弱面となっている部分が存在する可能性も否定はできないことから、日ごろからのり面の観察(のり肩やのり面内での亀裂や変状等)が重要で、出来れば 5～10 年程度を目途に専門家による簡単なのり面調査(現地踏査)を実施することが望ましい。

また、のり面内に設置されている排水施設の点検も重要で、排水施設の不備によるのり面内への降雨水の浸透はのり面下の地盤の劣化をまねくことから注意が必要である。

という結果をいただいております。教育委員会といたしましては、高陵小学校西側法面は、通常時及び大地震時、かつ、長期(将来)にわたって「安定」評価を得ることができたと考えております。

なお、法面の排水設備など、劣化している状況もありますので、高陵小学校の改修に併せて、法面の排水設備も改修したいと考えています。また、今後も引き続き、表層など日頃の観察、点検を実施してまいります。

以上で、法面の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### (高陵校区コミュニティ会長)

冒頭にも申し上げましたが、本日の説明会は12時に終了しますので、よろしくお願いたします。12時以降、まだ質問がある方につきましては、すべての質問をお聞きしたいと思っておりますので、別途、質問、意見シートを準備しておりますので、そちらに記入をしていただき、本日、もしくは、後日でも構いません、学校やコミュニティ会長に届けていただきましたら、教育委員会において答えてまいりますので、ご記入を頂き提出をお願いします。

教育委員会に持ち帰ってもらった質問につきましては、あらためて、市のホームページや文書等で回答をしてまいりますので、よろしくお願いたします。

それでは、皆様からご意見やご質問をお受けいたします。

なお、最初に校区名を述べてから質問をしていただきますようよろしくお願いたします。それでは、挙手をお願いします。

#### 《質疑回答》

##### (質問)

法面の工事がなされてから年数が経過しており、法面部の舗装されている箇所や排水溝にひび割れ、亀裂等が見受けられますので、整備をしていただきたい。

##### (回答)

適切に、維持管理をしていきたいと考えています。

##### (質問)

P17「高陵小学校法面調査の結果について 報告書抜粋」の長期の安定性評価ー地震時ー全体における2-1断面の最小安全率が1.014という値になっていますが、数値の取り方次第で1を下回る場合もあるのではないかと心配があります。この数値は、子どもを預かる学校としては、安全性に欠けるのではないのでしょうか。また、最小安全率についてもう一度説明をお願いします。

##### (回答)

土が自重で落下しようとする力に対して、土の摩擦力と粘着力の抵抗力が上回ることで、法面は安定しています。最小安全率とは、その安定性を公式に基づき数値化したもの

になり、1以上の数値であれば安定していることとなります。1を上回れば上回るほど強固なものになり、逆に1を下回ってもただちに崩れるというのではなく、1を下回れば下回るほど、何かしらの兆候が現れると解釈される指標となります。また、最小安全率は、土が本来持っている抵抗力の中の摩擦力と粘着力のどちらか一方しか考慮しないため、安全側に配慮して計算していることとなり、本来の安全率はもっと高い数値となります。

また、長期とは、法面の土が長期間水にさらされて吸水、膨張し、強度を低下した最終的な状態のことを指します。1.014という数値は、土を劣化させた長期の状態、阪神淡路大震災級の地震が来ても安定しているという結果となります。また、先述したように本来の安全率の数値はもっと高くなることから、法面は安定しています。

(質問)

P18の報告書抜粋より「ただし、丘陵地の～…できないことから」について、可能性があるかはいささかわかりません。また、「丘陵地の粘性土層(0c1～0c4層)は～…のり面調査(現地調査)を実施することが望ましい」とありますが、本当に安全ならこういう調査は必要ないのではないのでしょうか。これらの疑問があるので、報告書そのものを枚方市のホームページで公表して貰いたいと思いますが、それは可能でしょうか。

(回答)

枚方市内の他の丘陵地や排水設備についても、日頃から異常がないかどうか観察し、維持管理に努めなければならないことであり、高陵小法面に限ったことではありません。

また、報告書資料は膨大にあり、ホームページでの公開は困難であると考えています。なお、実際の報告書について、ご要望いただいたら閲覧可能です。

また、先ほどの最小安全率についての補足ですが、P16の解析シミュレーションの一例をご覧ください。各層に対するN値(土の硬さ)を入力し、各辺2.5m、計20個から成る格子を上下左右に動かし、斜面に対する円弧滑りを計算しています。何通りもの数値が出た中で、一番小さい数値を最小安全率として示しています。

(質問)

P15法面の安定性の検討で、「地震時の評価は大地震時(目安として震度5～7程度)」とありますが、最悪の場合の震度7を想定するべきではないのでしょうか。また、揺れ方のパターンや余震等を考慮に入れると、最小安全率の数値が1を下回る場合もあり得るのではないのでしょうか。

(回答)

震度は体感震度として示したものであり、震度5～7と幅を持たせたのは、震度5でも人によってはとても大きな揺れとして感じるからお伝えした表現です。(工学的な地震動の強



さではない) また、安全率は、阪神淡路大震災級のエネルギー規模で計算しています。

(質問)

エネルギーの定義は何でしょうか。震源地が高陵小でも適用されるものですか。

(回答)

震度7規模の大地震時を想定しており、また、震源地が高陵小であっても同じです。

(質問)

揺れ方や余震等のパターンを考慮に入れて、最悪の状況を想定して計算していますか。何か事が起きても、想定外のことが起きたと済まされたのではたまりません。

(回答)

地震のメカニズムは大変複雑であり、一般的に、土木工学、建築工学において、今日まで培われてきた研究データを基に確立された解析手法を用いており、大阪層群のような一般的な地層での大地震が起きた場合について、今回の結果は信頼度の高いものです。

(質問)

想定外の災害が起きている中で、今までの地震データを基にするのではなく、例えば震度8規模の地震が起きた場合、最小安全率が1を下回るのではないのでしょうか。また、P18報告書抜粋より、「ただし、丘陵地の粘性土層～…否定はできない」との文言がありますが、先ほどの計算式にこれを考慮しているとは言ってませんでした。これを考慮すると1を下回るのではないのでしょうか。そうすると今までの土木工学を基に安全と言っていたものが安全でなくなることになります。

また、なぜN0.5のコアの写真がなく、N0.5は掘削深度が浅いのでしょうか。さらに、0s1層の砂質土層がN02の途中で切れていますが、この0s1層が法面の表面に出ていることはありませんか。もしそうならば砂質土層が水をより多く含むことになり、長期の安定性評価は1を下回ることになりませんか。

(回答)

当初、委託業者とはN01からN04までの4ヶ所の調査としていましたが、後に、業者からN05の地層も調査した方がよいとアドバイスがあったことから、調査を追加し行いました。

N05のコアの写真がない点については、N01～N04までのサンプルデータと同等のものを、多額の費用を使って納品してもらう必要はないと判断したためです。

N値は地盤の固さを表すものであり、N01とN02の法面表層のN値が低かったため、N05を追加したもので、N05のN値が0c2の途中までしかないのは、それより下の土層が非常に

硬く、それ以上掘る必要がないと判断し、打ち止めにしたためです。

また、先ほど 0s1 層が表面に出ているのではないかとの話がありましたが、長期の安定性評価というのは、室内試験で強制的に土を水により膨張させ、極限の状態により自然界で起こり得ることが考えにくい状況で算出しているため、0s1 層が表面に出ていると仮定しても、長期の安定性評価に影響はないと考えます。

(質問)

N03-N04 断面では砂質土層が(法面の)表面に出てるのに N01-N05-N02 断面では砂質土層が途中でとぎれています。この図が誤りで、砂質土層がまっすぐ伸びて下の方で(法面の)表面に出ていることはありませんか。

(質問)

N01-N05-N02 断面では円弧が大きいものでも下までいっていないが、もっと上に 0s1 層があれば結果は違うものになります。0s1 層や 0s2 層がどうなっているのかもっと調べる必要があるのではないのでしょうか。実際の傾きが本当にこうなっているのか、それとも想定でこうなっていると示しているのかわかりません。2 点でつないでいる層が同じ層か同位相を調べる必要があるのではないのでしょうか。

(回答)

この場ですぐにはお答えできないので、またあらためて回答したいと考えます。2 点だけつなげて同じ層かわからないというお話がありましたが、1 本追加するだけでも多額の費用がかかり…

(意見)

市民の防災に関わることであり、費用がかかるかからないという話ではないと思います。

(質問)

P18 報告書抜粋より「丘陵地の粘性土層…～弱面となっている部分」とあるのは、その部分の地層がひずんでいるということだと思います。このことを考慮に入れて最小安全率を算出しているとはどこにも書いていませんが、考慮に入れているということでよいですか。

(回答)

(土質ボーリング調査により土質や、地層を調査しているので) 考慮に入れて算出しています。

(質問)

「弱面となっている部分が存在する可能性も否定はできない」というのは、弱面となっている部分があるのかないかわからないということですか。

(回答)

弱面というところの説明については、あらためて回答します。

(質問)

P10 の N01-N05-N02 断面で、柔らかいと思われる砂質土層が途中で止まっている (0s1 層が 0s2 層に沈み込む) のはおかしいのではないですか。

(回答)

N05 の砂質土層の N 値が途中で止まっているのは、それより下の土層が固く、それ以上掘る必要がないと判断したためです。N05 の土質調査を追加して行った理由は、N01 と N02 の 0c1 層の N 値が低いため、さらに調査する必要があると判断したためです。

(質問)

先ほどの質問は、0s1 が途中で沈みこんでいるのではなく、法面下の方から表面に出ているのではないかという疑念があるとのことだったと思いますが、表面調査を行えば粘土か砂質かすぐわかるのではないのでしょうか。

(回答)

仮に N01-N05-N02 断面の砂質土層が西側表面に伸びてたととしても、長期の安定性評価に影響はないと考えていますが、土層の形状についての考え方は、あらためて回答します。

(質問)

法面調査を行った業者は、どのくらい実績がある業者なのか、教えてもらうことは可能ですか。調査の実施時期も口頭で述べただけで記述されておらず、現場管理人の経験というのが土質調査結果に影響します。また、最小安全率等の数値は、土木学会等で使用されている値ですか。さらに、先ほど、費用がかかるからボーリング調査の本数を減らしたと言っていました。P18 の報告書抜粋には日ごろからののり面の観察が重要と記載されており、こちらの費用の方が高つくと思うので矛盾しています。月に 1 回以上は排水路の点検が必要だと思いますが、枚方市はそれだけの費用をかけることができますか。

質問時間が残り少なく、まだ質問者がいらっしゃるので後日の回答でいいです。

(回答)

またあらためて回答させていただきます。

(質問)

N03-N04 断面と比較して、N01-N05-N02 断面の方が傾斜が急なため、最小安全率も低い結果になったと思います。また、隣接地の分譲宅地下の法面は土質調査されておらず、高陵小法面より傾斜が急な可能性があります。そこからの雨水が浸透してきたり、仮に崩れたりした場合を想定すると、1.014 という数値が果たして高陵小法面で測れる最大限悪い数値なのかと思います。

災害が起きた場合、N01-N05-N02 断面上の校舎に避難すると思うので、心配です。

(回答)

仮に隣接地法面の土砂が高陵小側に流出したとして、高陵小法面に影響がないのかと言われれば絶対ないとは言い難いが、校舎の基礎には、約 12~13m 下の地盤まで支持杭を打っているため、高陵小法面に影響が出たとしても校舎は維持できると考えています。

(質問)

他の事例として、最小安全率が 0.8 や 0.9 の場合、法面はことごとく崩れているのか、また、1.0 という数値であっても 100% は難しくても 80 から 90% は維持しているのか、過去の災害データ等から統計的な資料があれば示していただきたい。また、解析シミュレーションは計算値だけでなく、何かしらの実績データに基づいて解析を行っていると思うので、そのデータがあれば後日の回答でよいので示していただきたい。

(回答)

あらためて回答いたします。また、先ほど費用がかかるので行わないという説明については、大切な市民の税金をかけるべきところはかけるという意味でしたが、不適切な表現であったと、あらためてお詫びいたします。市民の安全のためにしなければならないことはするという方針は今後も変わりありません。

法面の安全管理については、学校の日常点検に加え、例えば台風等の場合は、教育委員会や土木部が必ず法面の安全を確認しているので、その事も併せてお知りおいていただきたいと思います。

(質問)

危険な箇所については、会計検査院から災害対策費を使い対応すべしとの通達があるのをご存知ですか。

(回答)

承知しています。今後も危機管理室等と連携して対応していきたいと考えます。

**(高陵校区コミュニティ会長)**

それでは、12：00になりましたので、ここで説明会を終了いたします。

本日は、さまざまなご質問や貴重なご意見をありがとうございました。

今後は、皆様から出た質問や意見を参考にしながら、教育委員会において、これからの取り組みに活かしてもらいたいと思います。

本日は、誠にありがとうございました。

**(事務局)**

まだ、ご質問や意見がある方につきましては、こちらに質問・意見シートを用意していますので、説明会終了後お渡しします。そちらに記入をしていただき、本日、もしくは、後日でも構いません、学校やコミュニティ会長に届けていただきましたら、後日お答えをします。ので、コミュニティ会長や学校を通じて提出をお願いいたします。

本日、お答えできなかった質問や、質問・意見シートで提出していただいた質問、意見につきましても、あらためて、市のホームページ等で回答、また、各学校に回答文書を複数部置くようにしますので、よろしく願いいたします。